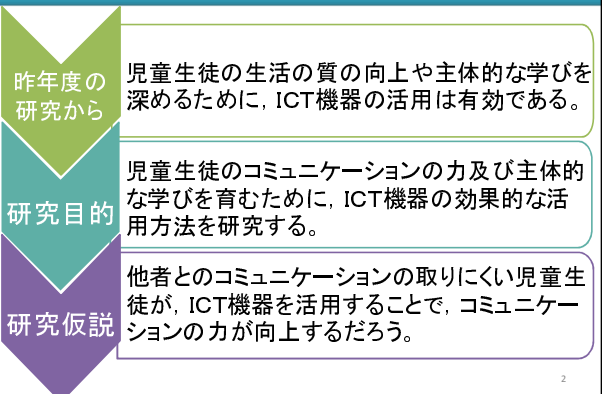


平成27年度 広島県特別支援学校教育研究会 第3研究グループ
ICT機器を活用した効果的な指導について
～ コミュニケーションの力を高めるためのICT機器の活用を通して ～

指導助言者	林 香	(県立教育センター特別支援教育・教育相談部 指導主事)	
チーフ	久保 薫	(広島県立広島北特別支援学校)	教 頭
サブチーフ	堀田 文治	(広島県立沼隈特別支援学校)	部 主 事
	木村 直子	(広島県立広島中央特別支援学校)	教 諭
	柴田 洋佑	(広島県立尾道特別支援学校)	教 諭
	西川 和真	(広島県立尾道特別支援学校)	教 諭
	西本 和義	(広島県立福山特別支援学校)	教 諭
	川野 弘宣	(広島県立廿日市特別支援学校)	教 諭
	矢澤 はるか	(広島県立呉特別支援学校)	教 諭
	原垣 実佳	(広島県立庄原特別支援学校)	教 諭
	君原 晴佳	(広島県立広島北特別支援学校)	教 諭
	小田 麻子	(広島県立呉南特別支援学校)	教 諭
	益田 峻佑	(広島市立広島特別支援学校)	教 諭
	河原 周作	(広島市立広島特別支援学校)	教 諭

研究目的・仮説



実践事例① (1班)

実態課題	中学部 第2学年(知的障害, 自閉症) ▼伝えることを諦める ▼注意獲得行動が多い
実践内容	日常生活の指導(帰りの会) ▼視覚情報機器を使って意思を伝える取組 ▼音声支援機器を使って一人で発表する取組
利点	【デジタルカメラ】 即時性 選択肢の拡大 自己操作 自己決定 【タブレット型端末+トーキングエイド】 自己操作 自己決定 一人で伝える機会が設定可能

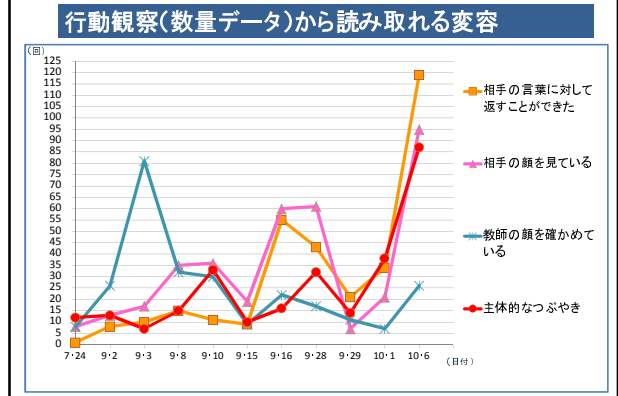
実践事例① (1班)

【デジタルカメラ, タブレット型端末+トーキングエイド】	
変容(成果)	▼生徒と教師の思考の共有ができた ▼「～ではなく・・・だ」の意思表示ができた ▼一人で発表できる達成感から自分で主体的に発表しようとした ▼注意獲得行動が減少した
課題	▼友だちからの評価には音声+視覚情報が必要である



実践事例② (2班)

実態課題	中学部 第2学年(知的障害) ▼一方的に思いを伝えることがある ▼日常的な会話を行うことができる
実践内容	数学科 ▼学習場面でタブレット型端末を用い、友だちと考えや答えを共有する
利点	【タブレット型端末+ロイロノート】 即時性 自己操作 自己決定 一人で伝える機会が設定可能 【プロジェクター】 情報の共有ができる

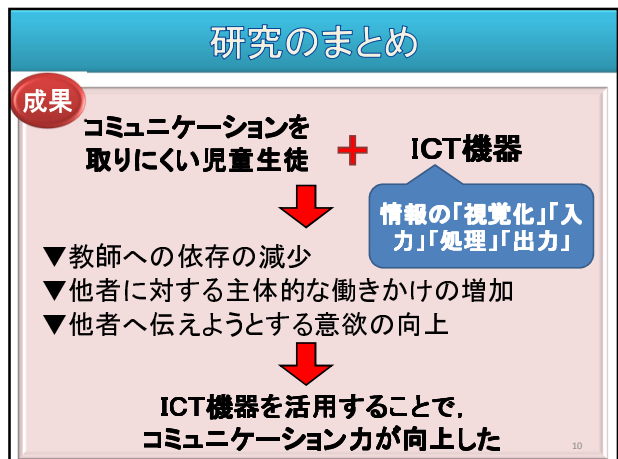
実践事例② (2班)



実践事例② (2班)	
【タブレット型端末+ロイノート、プロジェクター、セットトップボックス】	
変容(成果)	<ul style="list-style-type: none"> ▼相手の表情を見ながら話したり、相手の言葉にすぐに反応したりすることができた ▼学習に対し主体的な啖きが増えた ▼教師の顔を見る回数が減った ▼友だちと双方向間で相談し合い、学習上の課題を解決できた ▼友だち同士で納得し合うまで、根気強く説明できた
課題	<ul style="list-style-type: none"> ▼互いの考えを共有できたが、生徒自身が疑問に感じたり、友だちと解決に向けて取り組んだりする課題設定の必要

実践事例③ (3班)	
実態課題	小学部 第2学年(知的障害, 自閉症) ▼絵カードを使った要求ができ、発声できるときもある ▼カードブックに欲しいカードがないとき痙攣を起こす
実践内容	自立活動(コミュニケーション)  ▼タブレット型端末を使用した文字入力による要求の取組 ▼一度出した要求を断り、やりとりを設定する
利点	【タブレット型端末+かなトーク】 自己操作(文字入力) 自己決定 音声出力 

実践事例③ (3班)	
【タブレット型端末+かなトーク】	
変容(成果)	<ul style="list-style-type: none"> ▼文字入力をするので、カードブックになかったものに対して、自分で考えて要求ができた ▼平仮名、片仮名の使い分けもできた ▼要求を断られても、再考して別のおもちゃの要求を出すことができた =教師と双方向間のやりとりの第一歩
課題	<ul style="list-style-type: none"> ▼「赤い」「大きい」などの条件付きの要求など高い要求が難しい ▼要求以外のコミュニケーションは難しい



研究のまとめ	
課題	<ul style="list-style-type: none"> ▼コミュニケーションにおける情報入力・処理・出力のどの部分につまづきがあるのかを的確に把握すること(難しさ) ▼ICT機器は、児童生徒の能力を引き出すための一つのツールであることの自覚的な使用(意識的な活用)

